

平成27年度  
事業報告書



学校法人 山陽学園



## 目 次

### 1. 法人の概要

(1) 建学の精神と教育理念	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	3
(4) 学生・生徒・園児の在籍状況	3
(5) 役員の概要	4
(6) 評議員の概要	4
(7) 教職員の概要	4

### 2. 事業の概要

(1) 主な取組み	5
(2) 学生生徒等の確保	5
(3) 地域・社会サービス	6
(4) 施設・設備の状況、整備	8

### 3. 財務の概要

(1) 決算の概要	
① 貸借対照表の状況	9
② 収支計算書の状況	10
(2) 経年比較	
① 貸借対照表	13
② 収支計算書	
ア) 資金収支計算書	13
イ) 事業活動収支計算書	14
(3) 主要な財務比率比較	15
(4) その他	
① 補助金の状況	16

# 学校法人山陽学園 平成27年度事業報告

## 1. 法人の概要

### (1) 建学の精神と教育理念

山陽学園は、1886（明治19）年、わが国における女子教育の黎明期に、岡山市内の先覚的な人々によって創設されました。「設立趣旨書」には、「男女は車の両輪である。女性は知徳において男性に劣ることなく、志望を共にし精神を等しくして社会の公益をはかるべきである。知徳兼備の女子を養成して婦人社会の改良をはかる。」とあります。

その後明治・大正・昭和を通じて51年に亘り校長を務めた上代淑の人格教育として「愛と奉仕」の精神を教え、女子教育界において高い評価を得ました。

これらは本学園の教育のバックボーンとして受け継がれ、現在では、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院を擁する総合学園として歩んでいます。

この開明的で先見性に富んだ精神に基づき、男女がともにその個性と能力を十分に発揮し、喜びも責任も分かち合う男女共同参画社会の担い手にふさわしい人格と能力を備えた人材の育成に努めます。

### (2) 学校法人の沿革

- 明治19年 岡山市北区中山下に山陽英和女学校創設
- 31年 校名を山陽高等女学校に改称
- 37年 財団法人となる。
- 41年 上代淑校長就任
- 昭和11年 創立50周年記念式挙行
- 22年 岡山市中区門田屋敷の現校地（門田屋敷キャンパス）を取得  
学制改革により山陽高等女学校に併設中学校を設置
- 23年 財団法人を山陽学園と改称  
山陽女子高等学校、山陽女子中学校と改称
- 26年 学校法人山陽学園発足
- 41年 山陽女子高等学校に音楽科を設置
- 44年 岡山市中区平井の現校地（平井キャンパス）に山陽学園短期大学を開学  
家政科を設置
- 45年 短期大学家政科を家政学科家政学専攻並びに家政学科食物栄養学専攻に  
改組
- 47年 短期大学に幼児教育学科を設置
- 49年 山陽学園短期大学附属幼稚園を開園
- 50年 短期大学幼児教育学科に専攻科を設置
- 61年 学園創立100周年記念式典及び祝賀会を挙行
- 63年 山陽学園短期大学国際教養学科を設置
- 平成 2年 短期大学国際教養学科に専攻科を設置

- 3年 短期大学家政学科食物栄養学専攻を食物栄養学科に改組。家政学科家政学専攻を生活学科に名称変更、4学科編成とする。
- 5年 高等学校に国際文化コースを設置
- 6年 山陽学園大学開学  
短期大学国際教養学科を基とした発展的改組を行い、国際文化学部コミュニケーション学科、比較文化学科の1学部2学科を開設する。
- 11年 短期大学生生活学科を生活デザイン学科、人間文化学科の2学科に改組
- 13年 高等学校普通科を特別進学コース・総合進学コース・国際文化コースに再編成。音楽科に器楽専攻と音楽専攻を新設
- 15年 大学国際文化学部コミュニケーション学科、比較文化学科の1学部2学科編成をコミュニケーション学部コミュニケーション学科の1学部1学科に再編  
短期大学生生活デザイン学科をキャリアデザイン学科に名称変更
- 17年 高等学校国際文化コースをアクティブイングリッシュコースに改称
- 18年 学園創立120周年記念式典及び祝賀会を挙行
- 21年 大学、短期大学を男女共学化  
大学コミュニケーション学部を改組し、総合人間学部言語文化学科、生活心理学科を開設  
看護学部看護学科を開設  
高等学校普通科にスーパー特別進学コースを新設  
中学校を特別進学コースと総合コースに再編成  
短期大学附属幼稚園収容定員120名に変更
- 22年 短期大学キャリアデザイン学科を廃科  
短期大学大学評価・学位授与機構認定専攻科幼児教育学専攻を廃止
- 23年 高等学校普通科にMusicコースを新設  
大学が認定看護師教育機関に認定（認定看護分野：皮膚・排泄ケア）
- 24年 高等学校普通科にエクセルコースを新設
- 25年 大学コミュニケーション学部コミュニケーション学科を廃止  
高等学校音楽科を廃止  
大学院看護学研究科看護学専攻設置
- 26年 高等学校特別進学コース及びアクティブイングリッシュコースを廃止



## (3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
山陽学園大学	平成6年4月	大学院 看護学研究科 看護学部 看護学科 総合人間学部 言語文化学科 生活心理学科	
山陽学園短期大学	昭和44年4月	食物栄養学科 幼児教育学科	
山陽女子高等学校	明治19年	全日制（普通科）	
山陽女子中学校	昭和22年4月		
山陽学園短期大学 附属幼稚園	昭和49年4月		

## (4) 学生・生徒・園児の在籍状況（平成27年5月1日現在）

（単位 人）

学 校 名	入学定員	収容定員	現 員	摘要	
山陽学園大学	大学院 看護学研究科	6	12	9	
	看護学部	80	320	357	
	総合人間学部	120	500	289	
	計	206	832	655	
山陽学園短期 大学	食物栄養学科	80	160	134	
	幼児教育学科	100	200	208	
	計	180	360	342	
山陽女子高等学校	200	600	558		
山陽女子中学校	70	210	186		
山陽学園短期大学附属幼稚園	40	120	95		

## (5) 役員概要 (平成27年6月2日現在)

定数 理事11～16名、監事2名

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	渡邊 雅浩	常勤	
理事	實成 文彦	常勤	大学長兼短期大学長
	塩山 啓子	常勤	高等学校長兼中学校長
	濱田 栄夫	常勤	大学副学長兼短期大学副学長兼幼稚園長
	萩原 健一郎	常勤	高等学校教頭兼中学校教頭
	三浦 裕子	非常勤	
	稲垣 美穂	非常勤	
	松田 久	非常勤	
	守屋 勝利	非常勤	
	太田 健一	非常勤	
	齊藤 育子	非常勤	
	岸本 卓巳	非常勤	
監事	土佐 直樹	非常勤	
	三宅 修	非常勤	
	岡本 友美	非常勤	

## (6) 評議員概要 (平成27年5月31日現在)

(単位 人)

区分	定数	現員		
		常勤	非常勤	計
評議員	28～35	11	18	29

## (7) 教職員概要 (平成27年5月1日現在)

(単位 人)

区分	教員		職員	
	本務	兼務	本務	兼務
法人本部	—	—	3	0
山陽学園大学	60	79	25	0
山陽学園短期大学	18	32	9	0
山陽女子高等学校	34	53	6	2
山陽女子中学校	14	5	2	0
山陽学園短期大学 附属幼稚園	4	7	0	0
合計	130	176	45	2

## 2. 事業の概要

平成27年度の事業の概要は次のとおりであります。

### (1) おもな取組み

平成27年度は大学、短期大学、附属幼稚園においては「愛と奉仕」の精神を基軸に、教育、研究、社会活動・地域貢献を柱として、事業を展開しました。また大学のガバナンスの確立のため、Plan-Do-Check-Actionを基本的手法として各種事業を進めました。

中学校、高等学校においては、建学の精神のもと、知育、徳育、体育、特色教育、入学生の確保、大学・短期大学との連携、危機管理、教職員研修を中心に事業を行いました。現在、高等学校の定員200人のうち半数が本中学校出身者になるよう将来展望を掲げて、中高一貫6年間教育の充実を図っているところです。

#### ① 山陽学園大学

- ・看護研修センターによる認定看護師教育課程（「皮膚・排泄ケア」分野）を開講しました。岡山県の看護職員専門分野研修事業の指定を受け、平成27年6月～平成28年2月の間実施し、18名の修了生を出しました。
- ・中学、高校、養護教諭を対象にした教員免許状更新講習「青年期の自己実現の支援」（選択領域6時間）を8月6日に実施し、33名が参加、「岡山のカルチャーゾーンの魅力～美術館・博物館を巡る～」（選択領域6時間）を10月3日、11月7日に実施し、それぞれ37名、39名が参加しました。

#### ② 山陽学園短期大学

幼稚園教諭を対象にした教員免許状更新講習「発達障害－発達障害の現代的課題」（選択領域6時間）を8月20日に実施し、26名が参加しました。

#### ③ 大学・短期大学共通

- ・保護者懇談会を5月31日に開催し、260名が参加しました。

#### ④ 山陽女子高等学校・山陽女子中学校共通

中高6年間の流れの中で、コースごとの目標を設定し、教科指導の計画と工夫の再構築を行いました。特別進学コースにおいて、教材の精選や先取り学習等を重視したシラバスを作成し実施しました。総合コースを中心に、基礎学力の向上に努めました。総合コースの上位者を対象に、発展的な内容で放課後学習を充実させました。

#### ⑤ 山陽学園短期大学附属幼稚園

- ・大学の看護学部並びに短期大学の食物栄養学科、幼児教育学科と連携し、歯磨き指導等の共催行事及び花植え、野菜植え等の環境教育を実施しました。
- ・茶道の会、陶芸教室を開催し、子供たちのマナーの習得、集中力、主体性の育成はもちろん、人としての心情面を育みました。

### (2) 学生生徒等の確保

大学・短期大学ではTV、新聞、インターネット等の各種メディアを活用し幅広い世代に向けた広報活動を展開しました。高校訪問については、重点度に応じた時期・回数で訪問を実施し、オープンキャンパスの集客状況に応じて県内および近県の重点校の訪問を強化しました。また、高校訪問に特化した担当者を配置し、高校の進路担当者との繋がり構築に重きを置く改善を図りました。さらに、3月の短期大学だけのオープンキャンパスの開催やWeb出願システムの導入等、新規施策に取り組みました。高校・中学では小・中

学校、塾への訪問活動や本校の特色を表したオープンスクールの企画を軸として、地域別に募集活動の見直しを行い、重点地区を複数で担当し、募集活動を実施しました。

## オープンキャンパス・オープンスクール

### ア. 大学・短期大学

開催日	参加者(名)
第1回 : 6月20日(土)	211
第2回 : 7月20日(月)	230
第3回 : 8月22日(土)	224
第4回 : 9月26日(土)	105
大学祭期間中 : 10月24日(土)、25日(日)	44
第5回 : 3月19日(土)	43

### イ. 高等学校

開催日	参加者(名)
第1回 : 7月12日(日)	622
第2回 : 10月4日(日)	446
第3回 : 11月22日(日)	282

### ウ. 中学校

開催日	参加者(名)
第1回 : 7月12日(日)	168
オープン模試 : 10月4日(日)	194
第2回 : 11月22日(日)	128

## (3) 地域・社会サービス

これまで実施してきた文化セミナー、公開講座及び「Sanyo子育て愛ねっと」等、地域連携事業の充実を図り地域との交流を推進しました。

### ①法人

#### 山陽学園文化セミナー

地域への貢献の一環として、山陽学園文化セミナーを開催しました。今年度は「教養講座聖書に学ぶ」、「キッズ卓球教室」を開講しました。(参加者延べ 170名)

### ②大学・短期大学

#### ア. 公開講座

「認知症カフェ」・「防災・要支援者援助」をテーマに3講座、「オレンジカフェ」を2回、10～12月に開催しました。(参加者延べ229名)

#### イ. 公開講演会

- i 上代皓三記念講演会を5月27日(水)に開催しました。(参加者200名)  
 テーマ Loving Allの生き方  
 講師 更井 哲夫氏(社会福祉法人岡山博愛会理事長)
- ii 公開講演会を11月21日(土)に開催しました。(参加者125名)  
 テーマ 古代の日韓交流史に学ぶ  
 講師 西谷 正氏(海の道むなかた館長)

#### ウ. その他

- i 幼児教育学科を中心に、食物栄養学科、看護学科、総合人間学部と地域及び行政の連携による「S a n y o子育て愛ねっと実行委員会」が「おかやま子育てカレッジ地域貢献事業」の指定を受け、以下の活動を行いました。
  - ・親子交流会  
親子交流広場3回 合計参加者 子ども155名 保護者104名
- ii 三幡鉄道研究会主催の三幡軽便鉄道開通100周年記念事業を学内で9月5日(土)～6日(日)に開催しました。
- iii 地域の教育機関等へ講師を派遣しました。
  - ・小学校・中学校・高等学校・大学への講師派遣：幼児教育・公衆衛生・看護・カウンセリング・文化的内容が主
- iv 地域課題解決を目的とした研究を行いました。
  - ・笠岡市大島地区との協定を締結  
生活心理学科の学生が現地で地域課題解決を目的とした研究活動を実施
  - ・おかやま大学生中山間地域研究  
岡山県に生活心理学科の調査が採択され「真庭に住もうマップ」を編集し市内外に配布
- v 学内外でボランティア活動を行いました。
  - ・学生ボランティア, さんばと隊による地域のこどもの見守りや学内外の安全啓発活動への学生の参加
- vi 「大学コンソーシアム岡山」の積極的活用を図りました。
  - ・地域貢献  
日曜日こども大学(6月7日)、七夕エコナイト各大学(7月5日)、東日本大震災復興支援ボランティア(8月23日～8月25日)
  - ・吉備創生カレッジ  
本学の教員が各分野に応じた内容を担当

#### ③高等学校・中学校

##### ア. 講演会

創立129周年記念講演会 (参加者 約800名)

演 題 「愛に生きる人生」

講 師 更井 哲夫

##### イ. その他

- i 小学生・中学生対象の第12回上代記念音楽コンクールを、予選9月、本選は10月に実施し、入賞者記念演奏会を11月に開催しました。(参加者70名)
- ii チャリティリレーコンサートを5月、11月に実施し、参加費の一部を日本赤十字社に寄附しました。(参加者25名)

#### ④短期大学附属幼稚園

地域との交流・ふれあいを大切にしました。

- ・地域ボランティアの方々との交流(もちつき会、菜園の手入れ等の各行事)
- ・地域子育て支援として未就園児ふれあい体験を無料で実施
- ・操南中学校、山陽女子中学校の職場体験の受け入れ

(4) 施設・設備の状況、整備

大学・短期大学図書館を土曜日に開館し、教育環境の充実を図りました。

①現有施設の所在地等

所在地	施設等	面積等	設置校
平井キャンパス (岡山県岡山市中区平井)	校地	47,674㎡	山陽学園大学 山陽学園短期大学
	校舎他	18棟	山陽学園短期大学附属幼稚園
門田屋敷キャンパス (岡山県岡山市中区門田屋敷)	校地	31,899㎡	山陽女子高等学校 山陽女子中学校
	校舎他	14棟	
その他 (岡山県真庭市)	校地	10,305㎡	

②今年度の主な整備

・大学

私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金備品	8,668千円
本館2階自動ドア設置工事	1,182千円
助産学専攻科開設備品	5,137千円

・短期大学

私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金備品	9,044千円
本館2階自動ドア設置工事	718千円

・高等学校・中学校

体育館建具改修	6,102千円
食堂(カフェ・ベラ)内装改修	1,350千円

### 3. 財務の概要

#### (1) 決算の概要

※ 各表は、項目ごとに千円未満を四捨五入しており項目の合計金額と合計欄の金額は一致していません。

#### ① 貸借対照表の状況

貸借対照表は、施設や設備など各種の財産の保有状況を表し、教育研究に必要な財産が適正に維持管理されているかを示すものです。

資産は、保有する土地、建物、現金預金などを示し、負債は、借入金や退職給与引当金など、いずれ支出となるものを示します。基本金は、学校法人が必要な資産を永続的に維持するために事業活動収入のうちから組入れたものです。この基本金と繰越収支差額の合計が正味財産となります。

### 貸 借 対 照 表

(単位 千円)

科 目	27年度	26年度	増 減
固 定 資 産	6,609,564	6,733,905	△ 124,341
流 動 資 産	861,071	768,425	92,646
資産の部 合計	7,470,635	7,502,330	△ 31,695
固 定 負 債	915,030	963,499	△ 48,469
流 動 負 債	312,364	350,824	△ 38,460
負債の部 合計	1,227,394	1,314,324	△ 86,929
基 本 金	10,354,910	10,288,631	66,279
繰 越 収 支 差 額	△ 4,111,669	△ 4,100,625	△ 11,044
純資産の部 合計	6,243,241	6,188,007	55,234
負債及び純資産の部合計	7,470,635	7,502,330	△ 31,695

減価償却額の累計額の合計額

4,674,992千円

退職給与引当金の額は、全教職員に係わる期末要支給額の100%を基にして算定、計上している。

翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

432,508千円

#### 【貸借対照表の概要】

前年度と比べた主な増減要因は次のとおりです。

資産の部については、有形固定資産は、大学短期大学の私立大学等研究活性化設備整備費補助金による備品の購入をはじめとした取得額の増はありましたが、減価償却額が上回ったことで1億7,346万円の減となりました。特定資産では、将来への積立を行い4,912万円増となりました。以上のことから固定資産は1億2,434万円減となり、流動資産の増減も合わせた資産の部合計（資産総額）は3,170万円の減となりました。

負債の部については、固定負債では長期借入金が減額となったため4,847万円の減、流動負債も前受金の減額の影響で減となり、負債の部合計は8,693万円の減となりました。

純資産の部については、基本金では、基本金要組入額から借入金による未組入額を除いた額を組み入れ6,628万円増となりました。なお未組入高4億3,251万円は、翌会計年度以後の会計年度において借入金の返済等にあわせ組入れを行います。繰越収支差額は4億1,167万円の支出超過となりました。

以上の増減により、平成27年度末の財政状態は資産総額74億7,064万円、負債総額12億2,739万円、純資産総額62億4,324万円となりました。

② 収支計算書の状況

学校会計基準の改正に伴い、平成27年度より消費収支計算書が事業活動収支計算書となり、大幅に書式が変更となりました。事業活動収支計算書は、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の3つの部門から構成されております。この区分表示により、経常的な収支及び臨時的な収支に区分され、活動区分ごとの収支差額が把握できるようになりました。

**事業活動収支計算書（前年度対比）**

（単位 千円）

		科目	27年度	26年度	増減
教育活動収支	収入の活動	学生生徒等納付金	1,475,780	1,463,979	11,801
		手数料	21,358	23,478	△ 2,121
		寄付金	46,989	51,041	△ 4,052
		経常費補助金	457,084	422,446	34,638
		付随事業収入	24,772	20,325	4,447
		雑収入	66,262	84,579	△ 18,317
		教育活動収入計	2,092,244	2,065,849	26,395
	支出の活動	人件費	1,296,417	1,388,142	△ 91,725
		教育研究経費	581,533	555,773	25,759
		管理経費	155,045	159,296	△ 4,251
徴収不能額等		3,565	6,026	△ 2,461	
	教育活動支出計	2,036,560	2,109,238	△ 72,678	
教育活動収支差額			55,684	△ 43,389	99,073
教育活動外収支	収入の活動	受取利息・配当金	1,397	2,212	△ 815
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	1,397	2,212	△ 815
	支出の活動	借入金等利息	3,555	5,454	△ 1,899
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	3,555	5,454	△ 1,899
教育活動外収支差額			△ 2,159	△ 3,242	1,084
経常収支差額			53,526	△ 46,631	100,157
特別収支	収入の活動	資産売却差額	0	329	△ 329
		その他の特別収入	16,580	1,233	15,347
		特別収入計	16,580	1,562	15,019
	支出の活動	資産処分差額	14,872	22,565	△ 7,693
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	14,872	22,565	△ 7,693
特別収支差額			1,709	△ 21,003	22,712
基本金組入前当年度収支差額			55,234	△ 67,635	122,869
基本金組入額合計			△ 71,159	△ 377,102	305,943
当年度収支差額			△ 15,924	△ 444,737	428,812
前年度繰越収支差額			△ 4,100,625	△ 3,655,888	△ 444,737
基本金取崩額			4,880	0	4,880
翌年度繰越収支差額			△ 4,111,669	△ 4,100,625	△ 11,044

（参考）

事業活動収入計	2,110,221	2,069,622	40,599
事業活動支出計	2,054,987	2,137,257	△ 82,270

※平成26年度の数値は、旧基準の消費収支計算書を新基準の事業活動収支計算書に組替えた参考値です。

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金のてん末を明らかにしたものです。資金繰りの状態を見ることができません。

### 資金収支計算書（前年度対比）

収入の部		(単位 千円)		
科 目	27年度	26年度	増 減	
学生生徒等納付金収入	1,475,780	1,463,979	11,801	
手数料収入	21,358	23,478	△	2,121
寄付金収入	46,989	51,041	△	4,052
補助金収入	472,659	422,763	49,896	
資産売却収入	0	0	0	
付随事業・収益事業収入	24,772	20,325	4,447	
受取利息・配当金収入	1,397	2,212	△	815
雑収入	98,014	158,693	△	60,678
借入金等収入	6,810	181,100	△	174,290
前受金収入	224,060	255,143	△	31,083
その他の収入	62,325	607,767	△	545,441
資金収入調整勘定	△ 319,145	△ 323,546	4,401	
前年度繰越支払資金	692,661	743,753	△	51,093
収入の部合計	2,807,679	3,606,708	△	799,029

支出の部		(単位 千円)		
科 目	27年度	26年度	増 減	
人件費支出	1,333,224	1,460,191	△	126,967
教育研究経費支出	394,531	402,291	△	7,760
管理経費支出	128,415	139,927	△	11,513
借入金等利息支出	3,555	5,454	△	1,899
借入金等返済支出	51,688	41,322	10,366	
施設関係支出	3,514	641,590	△	638,076
設備関係支出	50,579	35,278	15,301	
資産運用支出	50,000	170,000	△	120,000
その他の支出	27,332	42,099	△	14,766
資金支出調整勘定	△ 29,445	△ 24,104	△	5,340
次年度繰越支払資金	794,287	692,661	101,626	
支出の部合計	2,807,680	3,606,708	△	799,028

#### 【収支計算書の概要】

当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を示し、経営の状態を見ることができる「事業活動収支計算書」を基に収支の状況を説明します。

区分ごとに前年度と比べた主な内容は次のとおりです。

#### 〔教育活動収支〕

教育活動収入は、20億9,224万円で、前年度比2,640万円の増となりました。学生生徒納付金は、中学校高等学校で生徒数が増加したことなどにより1,180万円増となりました。経常費補助金は、大学短期大学で増額となり3,464万円の増となりました。雑収入では私立大学退職金財団交付金が減額となり1,832万円の減

となりました。

教育活動支出は20億3,656万円で、前年度比7,268万円の減となりました。人件費は、教職員数の減員、退職金の減額などにより9,173万円減となりました。教育研究経費は、減価償却額の増により2,576万円増となりました。管理経費は425万円の減となりました。教育活動収支差額は5,568万円の収入超過となりました。

#### [教育活動外収支]

教育活動外収支は、経常的な財務活動に係る事業活動収入および事業活動支出をいいます。

教育活動外収入は、受取利息配当金139万円のみで前年度比81万円の減となりました。事業活動外支出は、借入金等利息355万円で前年度比190万円減となり、教育活動外収支差額は、216万円の支出超過となりました。

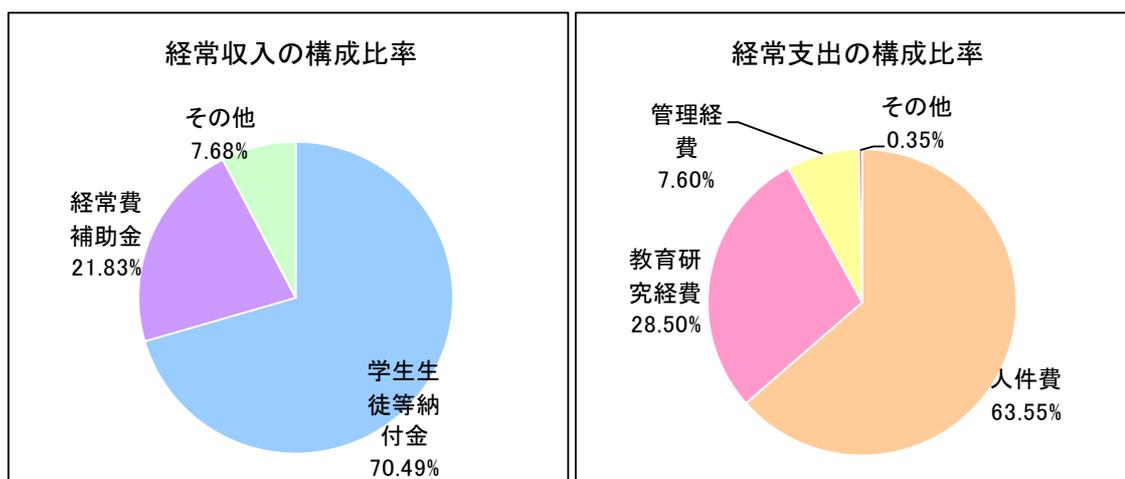
教育活動収支と教育活動外収支の合計を経常収支といい5,352万円の収入超過となりました。

#### [特別収支]

特別収支は、臨時的な事業活動収入及び事業活動支出をいいます。

特別収入は、その他の特別収入1,658万円で、施設設備補助金が大学短期大学の私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金の影響で、前年度比1,535万円の増額となりました。特別支出は資産処分差額で1,487万円となり特別収支差額は171万円の収入超過となりました。

事業活動収入計（従来の帰属収入）は、前年度比4,060万円増の21億1,022万円、基本金組入前当年度収支差額（従来の帰属収支差額）は、5,523万円の収入超過となりました。基本金組額合計は7,116万円、当年度収支差額は1,592万円の支出超過となり、前年度繰越収支差額とあわせた翌年度繰越収支差額は41億1,167万円の支出超過となりました。



※経常収入・・・経常収入とは、従来の「消費収支計算書」における「帰属収入」（負債とにならない収入）から臨時的な収入（施設設備取得に対する補助金及び寄付金、有価証券や不動産等の資産売却差額等）を除いた通常の事業活動によって得た経常的な収入のことをいいます。

※経常支出・・・経常支出とは、従来の「消費収支計算書」における「消費支出」から臨時的な支出（資産処分差額及びその他の特別支出）を除いた経常的な支出のことをいいます。

(2) 経年比較

※ 各表は項目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していないことがあります。

① 貸借対照表

(単位：千円)

	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末	27年度末
固定資産	6,894,145	6,700,242	6,664,695	6,733,905	6,609,564
流動資産	507,106	647,125	772,364	768,425	861,071
資産の部合計	7,401,251	7,347,367	7,437,059	7,502,330	7,470,635
固定負債	821,944	804,132	835,711	963,499	915,030
流動負債	324,444	338,373	345,707	350,824	312,364
負債の部合計	1,146,388	1,142,506	1,181,417	1,314,324	1,227,394
基本金	9,396,524	9,402,101	9,911,529	10,288,631	10,354,910
繰越収支差額	△ 3,141,661	△ 3,197,239	△ 3,655,888	△ 4,100,625	△ 4,111,669
純資産の部合計	6,254,863	6,204,862	6,255,641	6,188,007	6,243,241
負債及び純資産の部合計	7,401,251	7,347,367	7,437,059	7,502,330	7,470,635
参考) 減価償却額の累計額の合計額	4,204,642	4,362,286	4,458,042	4,480,891	4,674,992

② 収支計算書

ア. 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学生生徒等納付金収入	1,294,499	1,444,594	1,481,070	1,463,979	1,475,780
手数料収入	24,563	24,982	24,876	23,478	21,358
寄付金収入	11,729	13,462	55,014	51,041	46,989
補助金収入	455,655	393,826	410,533	422,763	472,659
資産売却収入	0	80	0	0	0
付随事業・収益事業収入	27,931	27,993	22,578	20,325	24,772
受取利息・配当金収入	14,954	12,480	7,915	2,212	1,397
雑収入	78,766	229,419	49,722	158,693	98,014
借入金等収入	3,160	4,170	68,760	181,100	6,810
前受金収入	281,220	271,605	256,272	255,143	224,060
その他の収入	123,155	422,183	859,670	607,767	62,325
資金収入調整勘定	△ 281,934	△ 363,490	△ 291,687	△ 323,546	△ 319,145
前年度繰越支払資金	382,418	491,557	564,846	743,753	692,661
収入の部合計	2,416,117	2,972,860	3,509,567	3,606,708	2,807,679

支出の部	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人件費支出	1,327,507	1,482,155	1,292,904	1,460,191	1,333,224
教育研究経費支出	400,428	403,838	389,281	402,291	394,531
管理経費支出	114,039	105,276	113,209	139,927	128,415
借入金等利息支出	7,127	7,031	6,664	5,454	3,555
借入金等返済支出	3,870	4,840	29,370	41,322	51,688
施設関係支出	452	74	622,898	641,590	3,514
設備関係支出	31,229	38,952	37,858	35,278	50,579
資産運用支出	35,243	360,619	280,554	170,000	50,000
その他の支出	22,164	22,177	28,200	42,099	27,332
資金支出調整勘定	△ 17,499	△ 16,946	△ 35,125	△ 24,104	△ 29,445
次年度繰越支払金	491,557	564,845	743,753	692,661	794,287
支出の部合計	2,416,117	2,972,860	3,509,567	3,606,708	2,807,680

イ. 事業活動収支計算書

(単位：千円)

		科目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
教育活動収支	収入の活動	学生生徒等納付金	1,294,499	1,444,594	1,481,070	1,463,979	1,475,780
		手数料	24,563	24,982	24,876	23,478	21,358
		寄付金	11,729	13,462	55,014	51,041	46,989
		経常費補助金	451,534	389,948	405,189	422,446	457,084
		付随事業収入	27,931	27,993	22,579	20,325	24,772
		雑収入	28,390	105,030	29,852	84,579	66,262
		教育活動収入計	1,838,646	2,006,008	2,018,580	2,065,849	2,092,244
	支出の活動	人件費	1,275,035	1,365,244	1,272,947	1,388,142	1,296,417
		教育研究経費	578,001	571,228	547,751	555,773	581,533
		管理経費	139,009	127,482	132,193	159,296	155,045
徴収不能額等		4,320	4,563	4,013	6,026	3,565	
教育活動支出計		1,996,365	2,068,518	1,956,905	2,109,238	2,036,560	
		教育活動収支差額	△ 157,719	△ 62,510	61,675	△ 43,389	55,684
教育活動外収支	収入の活動	受取利息・配当金	14,954	12,480	7,915	2,212	1,397
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	14,954	12,480	7,915	2,212	1,397
	支出の活動	借入金等利息	7,127	7,031	6,664	5,454	3,555
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	7,127	7,031	6,664	5,454	3,555
		教育活動外収支差額	7,827	5,449	1,251	△ 3,242	△ 2,159
		経常収支差額	△ 149,892	△ 57,061	62,926	△ 46,631	53,526
特別収支	収入の活動	資産売却差額	0	6,856	2,118	329	0
		その他の特別収入	4,764	5,261	6,041	1,233	16,580
		特別収入計	4,764	12,117	8,159	1,562	16,580
	支出の活動	資産処分差額	2,241	5,058	20,305	22,565	14,872
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	2,241	5,058	20,305	22,565	14,872
		特別収支差額	2,524	7,059	△ 12,146	△ 21,003	1,709
		基本金組入前当年度収支差額	△ 147,369	△ 50,001	50,780	△ 67,635	55,234
		基本金組入額合計	△ 12,454	△ 17,217	△ 521,228	△ 377,102	△ 71,159
		当年度収支差額	△ 159,823	△ 67,219	△ 470,449	△ 444,737	△ 15,924
		前年度繰越収支差額	△ 2,987,007	△ 3,141,661	△ 3,197,239	△ 3,655,888	△ 4,100,625
		基本金取崩額	5,169	11,640	11,800	0	4,880
		翌年度繰越収支差額	△ 3,141,661	△ 3,197,239	△ 3,655,888	△ 4,100,625	△ 4,111,669
(参考)							
		事業活動収入計	1,858,364	2,030,605	2,034,653	2,069,622	2,110,221
		事業活動支出計	2,005,733	2,080,606	1,983,874	2,137,257	2,054,987

※平成23～26年度の数值は、旧基準の消費収支計算書を新基準の事業活動収支計算書に組替えた参考値です。

## (3) 主要な財務比率比較

(単位：%)

比率名	算式	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-7.9%	-2.5%	2.5%	-3.3%	2.6%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	107.2%	101.6%	77.6%	87.4%	94.2%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	69.8%	71.6%	73.1%	70.8%	70.5%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	68.8%	67.6%	62.8%	67.1%	61.9%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	31.2%	28.3%	27.0%	26.9%	27.8%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	7.5%	6.3%	6.5%	7.7%	7.4%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	156.3%	191.2%	223.4%	219.0%	275.7%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	18.3%	18.4%	18.9%	21.2%	19.7%
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$	84.5%	84.5%	84.1%	82.5%	83.6%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	96.9%	96.9%	96.6%	95.6%	96.0%

(4) その他

① 補助金の状況（経常費補助金を除く）

- ・山陽学園大学
  - 私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金…………… 9, 4 1 3 千円
  - おかやま大学生中山間地域研究・連携促進事業補助金…………… 4 8 6 千円
  - 大学改革推進等補助金（「地（知）の拠点大学による地域創生推進事業（COC+）」）  
…………… 7 5 0 千円
- ・山陽学園短期大学
  - 私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金…………… 6, 0 4 9 千円
- ・山陽女子高等学校
  - 私立学校教育改革等推進補助金…………… 1, 7 7 1 千円
  - 納付金減免補助金…………… 1 0, 3 8 6 千円
  - 特色教育施設設備整備費補助金…………… 1 1 3 千円
  - 人権教育指導費補助金…………… 3 2 4 千円
- ・山陽女子中学校
  - 私立学校教育改革等推進補助金…………… 1, 5 0 4 千円
  - 人権教育指導費補助金…………… 9 9 千円
- ・山陽学園短期大学附属幼稚園
  - 私立学校教育改革等推進補助金…………… 3 7 7 千円
  - 私立幼稚園就園奨励費補助金…………… 1 0, 8 6 6 千円